

調査の概要

○調査実施日 令和6年9月3日（火）
○調査の目的 ◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
○調査内容 ◆学力に関する調査（国語・社会・数学・理科A/B/C・英語）
◆学習状況に関する調査（生徒アンケート）
○調査参加者 中学3年生（本市参加者 597人）
※教科や出題範囲が限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部分です。

調査結果について

【①教科別平均点・対府平均比経年比較】

教科別平均点については、昨年と比較すると国語で上回る結果となりました。しかし、国語以外の4教科で昨年度よりも下回る結果となり、特に理科においては、年々正答率が低下し、大きな課題であると捉えております。

【②教科別得点分布・無解答率】

教科別得点分布については、すべての教科において70～89点の層が少なく、20～40点の層が多い結果となりました。

無解答率についても、昨年度と比較して改善した教科があったものの、府平均よりも高く、粘り強く取り組むことに課題が見られています。

【③観点別・設問別結果】

内容別にみると、数学の「データの活用」において、大阪府の平均を上回りましたが、その他の項目では府平均を下回りました。全体を通して、学習の土台である知識・技能の観点を中心とする基礎・基本の定着に課題が見られました。

生徒の学習状況を把握し、基礎的な内容の習熟度をさらに高めるため、個別の課題に応じた指導方法の工夫が必要であると捉えております。

今後に向けて

【学力向上が見られた市内学校の取組】

- ・授業の中で、「コミュニケーション力」や「協調性」、「意欲」などの非認知能力にスポットをあてた授業改善に取り組んでいる。
 - ・ICT部門、ペア・グループ部門など、学年、教科の壁を取り払って、教員がチームで生徒の課題に応じた研究に取り組んでいる。
 - ・学校全体で教員同士が日々の授業を参観し合い、教科の指導方法や発言のポイントなどを具体的にアドバイスし合うことで、日々の指導力向上を図る「相互授業参観」の取組を行っている。
- 教育委員会では、これらの取組を好事例として、その意義・目的とあわせて市内全体に普及させてまいります。

【課題に対する教育委員会の方策】

- ・チャレンジテストの分析結果を市内で共有し、各校の課題に正対した授業改善につながるよう支援する。
- ・指導主事を各校に派遣し、授業や取組に対する指導助言、教員研修等の充実を通して各校の授業改善、学力向上の取組を支援する。
- ・長時間、スマートフォンやタブレットを学習以外で使用している割合が多いことから、本市で導入している情報モラル教材を活用した日常的な情報教育を実施し、生徒がSNS等の安全な使い方やリスクについて知り、情報モラルを含めた情報活用能力を育成できるよう支援する。
- ・学びに向かう主体性を高めるために、学校での学びと将来をつなげるキャリア教育の推進するとともに、取組の好事例を収集し、学校や保護者に情報発信する。
- ・教育委員会が主催している「摂津SUNSUN塾」について積極的に周知し、学習習慣を身につけるための場を提供する。
- ・一人一台のICT端末の効果的な活用方法について、各学校の好事例を共有するとともに、より効果的な活用についての指導・助言を行う。

【家庭へのお願い】

〈基本的生活習慣の定着〉

適切な生活リズムを意図的につくり、発達段階に応じた適切な睡眠を取るよう促していただきますようお願いいたします。

〈家庭学習・主体的な学びへの支援〉

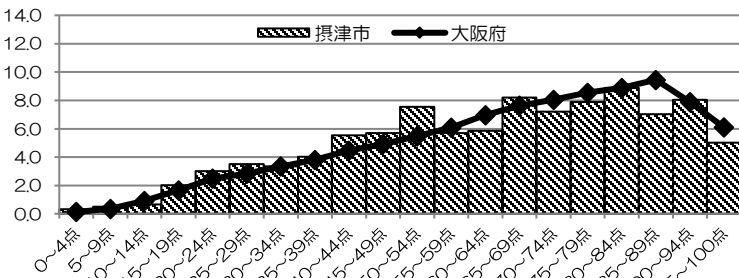
学年に応じて家庭学習の適切な時間を定め、子どもと一緒に学習する時間も設けながら、主体的に学習できるようご支援をお願いします。

〈スマートフォンやゲーム等のルールづくり〉

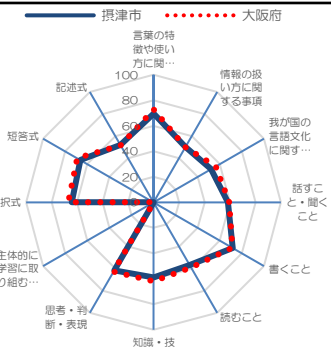
ゲームやスマートフォン等の使用状況を把握し、使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、適切なルールを決めていただきますようお願いいたします。

②教科別得点分布・無解答率

無解答率 本市5.3 %（令和5年度 12.4%） 大阪府 5.3 %（令和5年度 10.3 %）

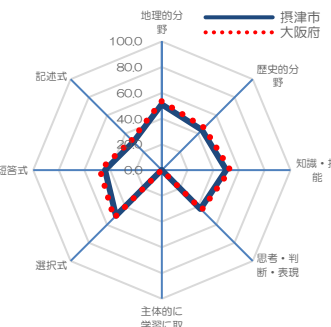
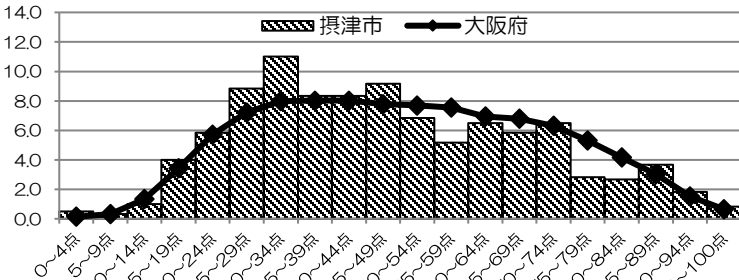


③観点別・設問別結果



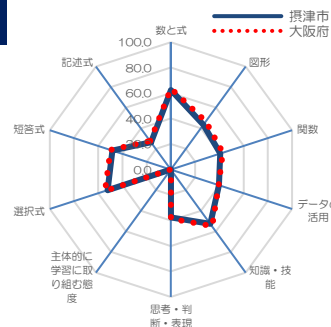
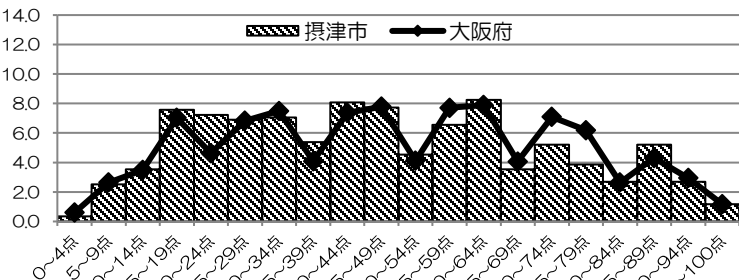
国語

無解答率 本市 5.1 %（令和5年度 3.4%） 大阪府 5.0 %（令和5年度 3.1%）



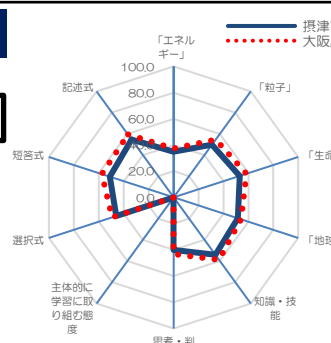
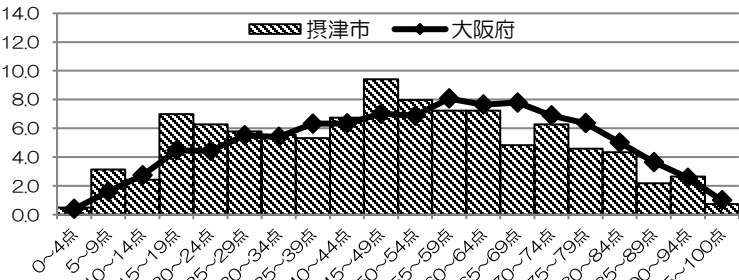
社会

無解答率 本市 14.9 %（令和5年度 12.3%） 大阪府 14.8 %（令和5年度 11.2%）



数学

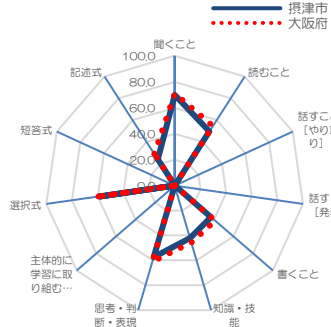
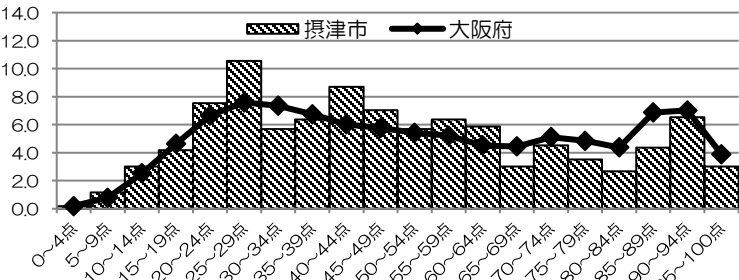
無解答率 本市 5.4 %（令和5年度 11.4 %） 大阪府 4.4 %（令和5年度 9.0%）



理科

理科C

無解答率 本市 7.3 %（令和5年度 7.5 %） 大阪府 6.9 %（令和5年度 6.5 %）



英語

令和6年度中学生チャレンジテスト（3年生）【生徒アンケートの結果】

授業についての意識調査

生徒アンケートでは、授業における学習活動の中身や学習集団としての成熟度、家庭学習やインターネットの使用についての質問など、右記の項目に対して、生徒自らが判断し、回答します。
令和5年度からアンケート項目が変更になったため、令和5年度と令和6年度の本市の結果と大阪府全体のアンケート結果のみ記載しています。

アンケートの全体的な傾向として、授業中の活動に係る項目において、昨年度と比較して肯定的回答が上回る結果が見られます。各中学校が取り組んでいる授業改善の成果であると捉えております。

【学習方法・主体性・家庭学習習慣の定着】

①⑤の項目について、大阪府の平均は下回ったものの、昨年度と比較して大きく向上する結果となりました。②においては、昨年度と比較して、「当てはまる」と回答した割合が減少したものの、肯定的回答では上回る結果となりました。
この結果から、各中学校は授業改善に取り組んでいるが、生徒が学習に主体的に取り組む態度については、さらに育てていく必要があると捉えております。また、小学校との連携を深め、家庭学習週間の取組を継続しながら、授業以外においても、生徒が自ら学ぶ意味を考え、学習により自らの変容を自覚できるようになることが重要であると考えています。

【授業改善】

③④の項目について、大阪府全体、昨年度と比較して非常に高い数値となりました。思考ツールやタブレット端末等を活用し、自分の考えを整理したり、友だちとの意見交換をする活動を行うなど、場面に応じた活用が定着しております。これまで摂津市が力を入れてきた授業改善の成果だと捉えております。

【学級等の集団作り】

⑥の項目について、大阪府全体と比較して、「当てはまる」と回答した割合が下回ったものの、昨年度と比較して6.4ポイント向上しました。一方、⑦については昨年度よりも下回る結果となりました。
違った考えや意見を受け止めることができる学級が増えてきている背景として、各学校が生徒同士が互いの良いところを共有する活動やグループワークの中で感謝の気持ちを伝え合う活動など、心理的安全性を高める取組を行なっている成果だと捉えております。
今後も摂津市のめざす学校の姿に示す「学校に関わる全ての人にとって居心地が良くみんなでともに創る持続可能な学校」が実現できるよう、生徒同士のつながりを大切にしたい学校づくりを引き続き指導してまいります。

【読書習慣・キャリア教育・家庭でのスマートフォンの活用】

⑩について、昨年度と比較して、1時間以上本を読んでいる割合が上回る結果となりました。⑧⑨においては、肯定的割合が大阪府全体、昨年度と比較して下回っており、忍耐力や社会への関心等に課題が見られました。これらの改善に向けて、非認知能力を高める取組や地域企業と連携した取組、キャリア・パスポートを効果的に活用し、社会と学びをつなげ、自分の将来について考える時間を設けるなどキャリア教育の充実に取り組んでまいります。

⑪においては、スマートフォンの使用時間が昨年度と比較して減少したものの、大阪府全体と比較して多い傾向にあります。スマートフォンの節度ある適切な使用について、家庭と連携を図るとともに、SNSトラブルに巻き込まれない使い方について、本市で導入した情報モラル教材等を活用して生徒たちに啓発するよう、引き続き指導してまいります。

大阪府全体の分析では、右記生徒アンケートに肯定的に回答した生徒は否定的に回答した生徒に比べて、チャレンジテストの正答率が高い傾向にあるといった分析結果が出ております。そのことを踏まえ、各教科の正答率だけでなく、生徒アンケートの肯定的回答が増加するような授業改善に取り組んでまいります。

ご家庭におかれましても、子どもたちの家庭学習の定着について、ご協力をよろしくお願いいたします。

チャレンジテストについては、大阪府全体の調査結果とともに、「ワークブック」や「カだめしプリント」などの学習ツールが大阪府教育庁市町村教育室小中学校課のWebページに掲載されていますのでご利用ください。

【カだめしプリント】

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikarasyoukai/index.html>

【ワークブック】

<http://wwwc.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>

【ことばのちから】

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/kotobanotikara/kotoba-katuyou.html>

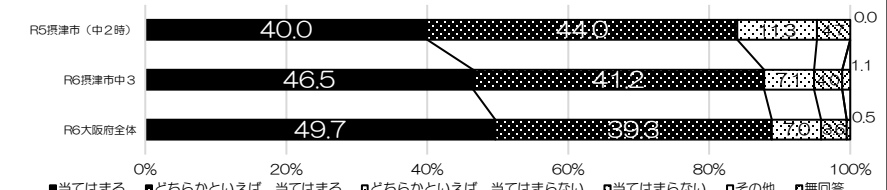
【中学生チャレンジテスト】（正答例なども掲載）

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/index.html>

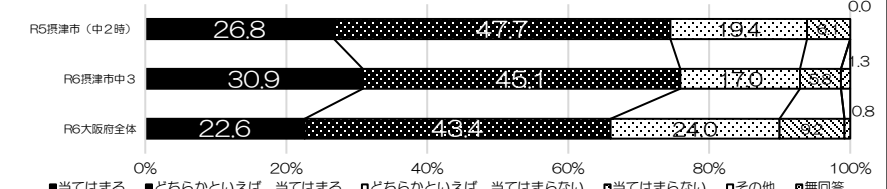
今年度大阪府全体の回答との比較

※令和5年度より質問項目が変更されました。

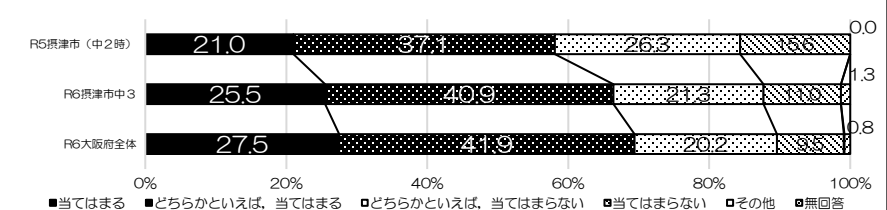
①文章や資料などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んでいる



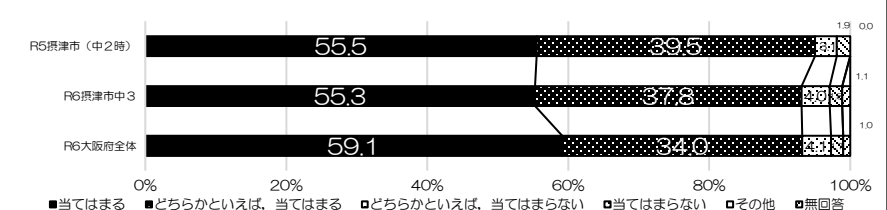
③授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある



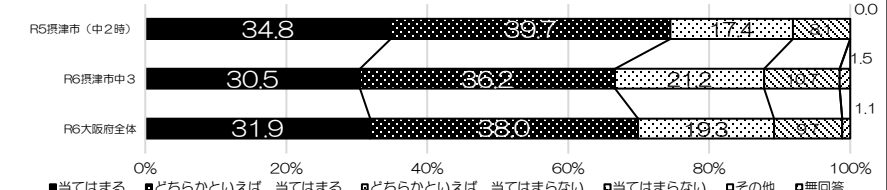
⑤家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している



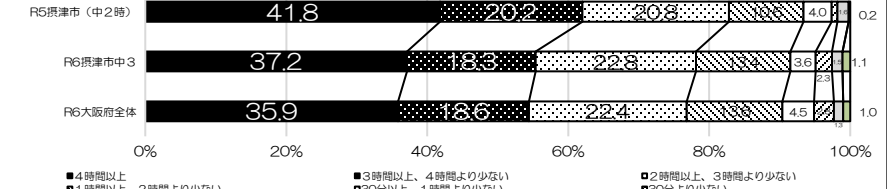
⑦学校などで、他の人と協力し合うことができる



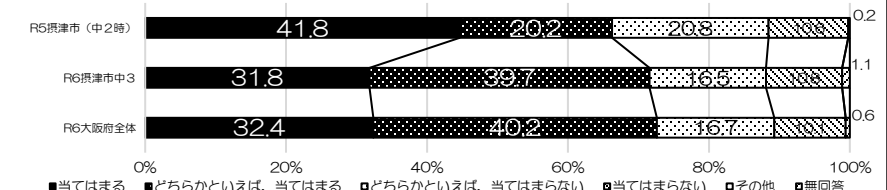
⑨テレビや新聞、インターネットで社会的な出来事に関するニュースを見ている



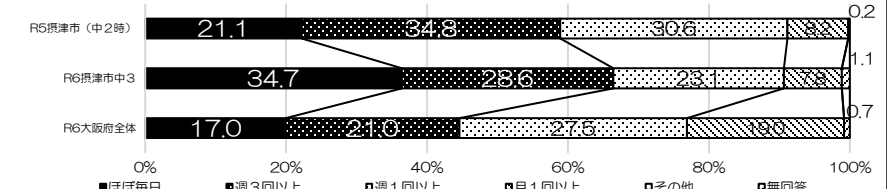
⑪普段（月曜日から日曜日）、1日平均どれくらいの時間、学習以外（ゲームやSNS等）にスマートフォンやタブレットを使っていますか



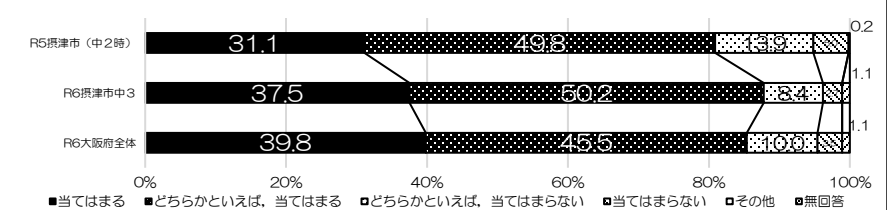
②わからないことや知りたいことがあったとき、図書館資料やインターネットなどで調べている



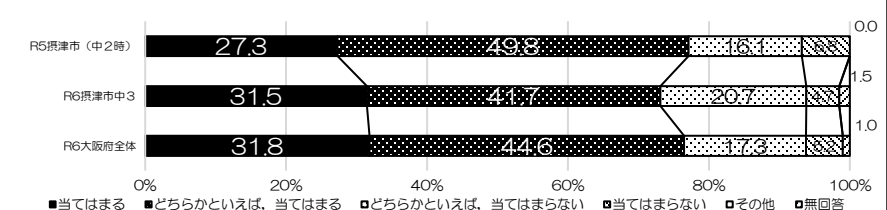
④授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか



⑥あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある



⑧難しいことがあっても、あきらめない



⑩普段（月曜日から日曜日）、1日平均どれくらいの時間、本（教科書は除く）を読みますか

